

介護老人保健施設「めぐみ」 が大きく変わります。

入所ベッド数が50床から → 60床へ増床
 平成17年4月 リニューアルオープン

居宅介護支援事業所

こかげ
 管理者 小林 桂子



日頃より、須藤病院および併設老人保健施設めぐみに対し、ご利用者様、ご家族様、地域の皆様には格別なご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、高齢化社会といわれる現代「長期に施設を利用したい」「介護者のリフレッシュのためにも短期入所の回数を増やしたい」「通所（日帰り）利用中は充実した時間が過ごしたい」等の皆様の声にこたえるべく『めぐみ』は生まれ変わります。

まず、今後の計画として現在の『めぐみ』と隣接する『療養型病棟』の三階部分を増築し、入所ベッド数を50床から60床に増床します。これにより、廊下や共有スペースが広がることで、車イスの方も楽に行き来が出来るように

なり、同時に浴室を増設することで、ゆつくりと入浴して頂けます。

このような、ゆったりとした居住空間を作り、利用者の皆様に快適な生活環境を提供するとともに、職員の気持ちも新たににより一層のサービス向上を目指します。

入所では、身体的介助中心の方、高齢者特有の精神的介助を必要とされる方、それぞれに合った環境でお世話させて頂きます。通所では、別のスペースを設け、個々に合ったプログラムを用意し、各種イベントや多彩なレクリエーションで快適な一日を過ごしていただく工夫を考えております。

そして、介護支援用具がめまぐるしく進歩している現在、当施設も時代の波に乗り遅れることなく、「安全・安心・快適」を皆様に提供して参りたいと職員一同検討しております。その具体例としては、移動時に障害となっていた肘かけが、可動式になっている車イスや、誤ってベッドから転落した時でも、事故にならないような高さになる低床ベッドの導入、自分では動くことが出来ない方や、体の大きな方でも安全に移動出来る

るリフトの導入などを考えております。

今後は、夏の納涼祭・秋の運動会等の行事を地域の皆様と一緒に集えるような場所にしてまいりたいと考えております。



納涼祭



運動会

右の写真は今年行われた納涼祭と運動会の様子です

平成17年4月オープンまでの改修工事の期間中は、病院や施設利用の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しますが、何とぞご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。前進する『めぐみ』にご期待下さい。

ご期待下さい



インフルエンザワクチン
 の接種が始まりました (3面)

検診マンモグラフィー撮影
 診療放射線技師認定取得

病気の話 乳がん (第三回)

皆さんこんにちは。いかがお過ごしでしょうか？

今までこの紙面を借りて、乳がんの話を見せていただいていたのですが今回で3回目になりました。今まで(1回目)マンモグラフィについて(2回目)確定診断までの検査についてと話を進めてきましたが、これらの検査で不幸にも乳がんが診断された場合、治療が必要になります。そこで今回は手術の方法などについて少しお話ししたいと思います。

- (1) 腫瘍の大きさが3.0 cm以下
- (2) 各種の画像診断で広範な乳管内進展を示す所見(マンモグラフィで広範な悪性石灰化を認めるものなど)のないもの
- (3) 多発病巣のないもの
- (4) 必要に応じて放射線照射が可能なもの、従って以下のものは原則として除外する
 - a) 重篤な膠原病の合併症を有するもの
 - b) 同側胸部の放射線既往照射のあるもの
 - c) 患者が照射を希望しないもの
- (5) 患者が乳房温存療法を希望すること



術式に関しては十分説明し納得していただいた上で、いづれかの方法で手術を受けていただくこととなります。

そして大切なことは、「術式の決定は患者さん本人にしていただく。」ということです。

ここで術式の決定上問題になるのは術式によってどのような違いがあるのか？ということになると思いますが、まず生存期間では違いがないことがいろいろの研究で示されています。では何が違うのかというと、局所再発率と呼ばれる乳房切除後に残った乳管内や皮膚に癌が再発してくる確率が異なるのです。温存手術後に再発した場合は乳腺を全で取ることで救済できるので、生存期間は違いがほとんど無いのです。また局所再発を減らす目的で放射線治療を追加で行う場合があります。これによって再発率を3分の1に減らすことができます。いづれかの方法で手術を受けられたとして、これで治療が終了したわけではありませぬ。乳がんの手術後には抗癌剤やホルモン療法などが必要になる場合があります。抗癌剤といっても副作用の強い方法から、ほとんど無いような方法までさまざまです。これは癌がどれくらい進行し



ているかによって治療法を決定することになります。

またホルモン療法とは、癌が乳腺から発生するため乳腺と同じ性質を持つていることがあり、その場合は女性ホルモンによって発育するため、女性ホルモンを減らすことによって癌の発育を抑えられるのです。術式や抗癌剤などいづれの治療法を選択したとしても、早期に発見できたか否かが決め手になることには違いありません。

今後は乳がん検診も、マンモグラフィ主体の方法になり、視触診で癌を見つける時代ではなくつつあります。当院ではマンモグラフィの機械も新しくなり、検診マンモグラフィの読影医試験にも2名が合格しており、さらに今回、検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師の試験に1名が合格したことにより、マンモグラフィ検診施設として認定を受けるための、全

ての条件を満たすことが出来ました。

このように検診マンモグラフィの体勢は十分に整えております。さらに当院では検診の際に患者さんからの希望がある場合や、精密検査が必要であると判断された場合には、MRI検査や超音波検査など全ての検査がすぐに受けられます。より早くより正確な診断を受けられるよう体勢もとっております。

乳がんもいかに早く見つかるかが鍵になります。自己検診でさわって見つける方法も必要ですが、超音波やマンモグラフィなどで触らないうちに見つける方がより早期に見つかります。検診は必ず受けるようにしてください。また気になつているけどなかなか診察を受けにくいと思つている方もいるかもしれませんが、当院には女性の検査技師もおりますので、一度検査を受けていただくことをおすすめします。

以上3回にわたり、乳がんについて簡単にお話しさせていただきました。これを機会に、一人でも多くの方が検診を受ける気になつていただけたら幸いです。

医師 小野 聡

インフルエンザワクチン 接種開始の お知らせ



10月1日よりインフルエンザワクチンの接種が始まりました。今年もまたインフルエンザが流行する時期が近づいてきました。

インフルエンザは通常12月頃から流行のきざしが見られ、3月頃まで流行が続きます。インフルエンザの一番の予防法はやはりワクチンの接種です。インフルエンザにかかりますと、肺炎、気管支炎のほか脳症、ライ症候群、心筋炎、中耳炎などの合併症もあって、生命の危険がありますので決して軽い病気ではありません。

ワクチン接種料

65歳未満 ￥3,000円

65歳以上 ￥1,000円

(自治体から補助がでるため)

ワクチンの接種によってインフルエンザにかかりにくくなります。たとえばかかっても症状の重症化を抑えることができ、合併症や死亡する危険性が抑えられるため、ことに高齢者に対して接種することが勧められています。そして、気管支喘息等の呼吸器疾患、慢性心不全、先天性心疾患等の循環器疾患、糖尿病、腎不全、免疫不全症等の疾患があり、インフルエンザによって重症化しやすい人にもワクチン接種は勧められています。また、このような人々にインフルエンザを感染させないようにするため、同居者やお世話をしている方にもワクチン接種をお勧めします。

す。従って、毎年ワクチン接種することが必要です。当院では10月1日よりワクチン接種を始めております。ワクチンは接種後2週間頃から効果が現れ、約半年くらい効果が持続するとされています。流行期の接種も可能ですが、流行しているという情報が出る頃には周囲に多くの感染者があり、すでに感染している場合があります。インフルエンザの流行期を考えると11月末頃までに接種することをお勧めします。

ワクチンは十分に用意しておりますが、念のため予約されることをお勧めします。予約は受付事務にて承っております。料金は65歳以上の方は自治体からの補助があるので1000円、65歳未満の方は3000円となっております。なお、ワクチン接種の際は問診表の記入をお願いします。問診表は受付でお渡しします。ご不明な点がありましたら受付または医師、薬剤師にご相談ください。



薬剤師 斉藤 武史

インフルエンザワクチンの接種を実施する前に、受ける方の健康状態を把握する必要があります。

接種を受ける前に、必ず問診表に現在の健康状態を詳しく書いて頂きます。以下の項目に該当する方は接種を受けることが出来ませんのでご注意ください。

- 明らかな発熱がある (37.5℃以上)
- 重篤な急性疾患にかかっている
- 予防接種を受けアナフィラキシー (重大なアレルギー反応) を起こしたことがある
- 医師が問診で不適當と認めた場合



編集後記

日々気候が変化する毎日、皆様いかがお過ごしでしょうか？今回のオアシスも伝えたいことがたくさんあり過ぎて困ってしまいました。

次号 (新年号) では、新年に向けての第一歩として、充実した内容を盛りだくさんでお伝え出来ればと思っております。

広報委員会 J・M